



新春を寿ぎ 新年の御祝詞を 申し上げます



会長 江頭 博幸

「さわやか」新聞読者の皆様におかれましては、素晴らしいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

元旦のマスコミ各社の社説を読むと、そのいずれもが、今年は、展望のない暗い一年になりそうと、述べています。四月から医療費3割負担、介護保険料の値上げなど、国民の負担増は4兆円にものぼります。不良債券処理が進めば、今以上に倒産や失業が増えるといわれています。年初めから、暗い話題で恐縮ですが、現実には現実として見つめないとい、歴史の流れに逆らっては生きていけないと思います。

また、今年が福祉元年ともいわれ、福祉がクロージアップされそうです。特に、ボランティア活動については、注目されてきます。ソフトウェアやハードウェアが完成の域に達し、これからはヒューマンウェアの時代に入ります。

この不景気の時代でのボランティア活動の意味するものは大きいものがあります。その意味からしても、「さわやか」のボランティアの皆様の活動が世間の注目を浴びることになるのではないかと考えています。

文字通り、ボランティアが必要とされる時代になってきています。

ボランティアの皆様、読者の皆様、「さわやか」は、八年目に入り、更なる躍進をして頑張る所存です。皆様の御支援・御協力をよろしく願います。今年も一年、共に頑張りましょう！

恭賀新年

夫 新年明けましておめでとうございます。
「さわやか」副会長 竹内 隆
「さわやか」の送迎ボランティアを開設当初から参加させて戴き、多くの送迎をする中で、心から「ありがとう」と言われると元氣と喜びが湧いてきます。

去年のこと、送迎が終わって門司港からルンルン気

明けましておめでとうございませう

事務局一同

もう8年？まだ8年？やっと8年？などと考える今日このごろですが、自分の歳があ頃から8歳も上がったなどは考えたくもありません！歳も心もあの頃に帰り初心に戻って皆様と共に頑張りませう。

山田 浩美

私が「さわやか」の事務局に入り、はや3年が経ちました。日々成長していかなくては行かないのですが（体重は順調に増加中？）まだまだ未熟者です。今年も私なりに全力を尽くし、一いつぱい頑張りませう。

高原 由美

分で、小倉に向かつて車を走らせ、国道一九九号線に出たら途端に警察官に旗を振られ「二十九キロオーバーです。ね三〇キロを超えなくて良かったですね」と労いの言葉を言われるとなんといったらよいのだろう。今年、これを戒めとしてがんばりませう。



良い年であらんことを喜びとともに祈り申し上げます。

今年には私にとつて節目の年でもあります。「さわやか」リーダーの中の一人として足を引っ張らないように、いつもおとなしい私に打ちつけて積極的に活動していきたいと思っております。皆様のご指導よろしく願います。

梶原 待子

新春早々の大寒波では、私にとつて身の引き締まる思いです。「さわやか」のやさしい方達にかこまれて、ほんわかほんわかしています。今年、気を引き締めてがんばりませう。

寄友 絹枝

演題「ボランティアについて」



講師
西南女学院大学 教授
杉原好則
一九四九年八月十八日生

九州大学教育学部卒業後、北九州市役所に勤務。保健福祉局地域福祉部障害福祉課長等を歴任し、現在、西南女学院大学保健福祉学部福祉学科教授。「さわやか」はじめ「いきいき北九州」「やすらぎ」の開設に多大なご尽力をいただきました。

障害を持った当事者としてどう活動したらよいか30年の経験を踏まえてお話しできたらと思います。

ボランティアの意味

もともとボランティアとは、中世ヨーロッパの小さな都市国家において、「自分たちの町は自分たちで守る」ということで発展した、自警団や義勇兵のこと。

どんな制度でも救いきれない部分が必要出てくるものです。そこを助けていこうというのがボランティアといえるのではないのでしょうか。

給料を貰っている人(プロ)とボランティア(アマチュア)の比較をしてみます。

自主性：やりたいからやるのがボランティア。

責任性：プロは責任が重い。ボランティアでは責任をとることはできない

報酬：基本的にボランティアは無報酬。しかし最近では、有償ボランティアといわれるものもよく聞かれるようになって

	プロ	ボランティア
自主性	△	○
責任性	○	×
報酬	○	×△
継続性	○	×
革新性	×	○
自由	×	○

りました。例としては、ホームヘルパーは最初はボランティア、それから有償ボランティアに移行して現在プロになっています。

継続性：給料を貰っているプロは簡単にやめる訳にはいかない。ボランティアは自由

革新性：プロは保守的。ボランティアは必要に応じた行動ができる。そのシステム

が良いとなると、行政等によって制度化されたり整備され発展していく。

自由：プロは自由でない。本意ではないがやらなければならぬこともたくさんある。ボランティアは「やりたいからやりたいことをやる」といった意味で自由。

障害者ボランティア

脳性麻痺児の療育キャンプ

脳性麻痺の子供を持つ母親は、夫や姑に対して申し訳ない、子供に対しての罪悪感から、自分を犠牲にしてしまい、障害児に兄弟がいる場合は、障害のない子供は、ほったらかされる。すると、その子供は注意を引こうとして「大きくなったら僕が面倒を見るから」などと言います。親はそれを喜んで聞いてはいけません。

幼い子供にそのような心配をかけない環境が必要なのです。毎年夏に、脳性麻痺児の療育キャンプを実施していますが、これは、

★障害児の社会性を育てる。
★母親は自分の時間を持つ。
★健常者にボランティアとしてたくさん参加してもらい、差別意識をなくす。

などを目的としています。障害を持つと諦めなければならぬ事が多くて、色々とチャレンジをしたいという気持ちがあるのに、あれはダメ！こ

れもダメ！と否定される。でもそれを決めていけるのは健常者なのです。人が生きるということはどういうことなのでしょう？いろいろな事を体験すること。そう言えるのではないのでしょうか。

現在、障害者は養護学校に通っています。家の前に小学校があっても、バスに乗って遠くの養護学校へ通っています。このようなことで、障害者と健常者が触れ合う機会が少なくなり、社会に出たときお互いにとまどってしまうことになるのです。

心のバリアーを取り除くためには、共に多くの人と触れ合うのに慣れていくことが大事なのです。

盲導犬のパピーウォーカー 生後間もない5kg足らずの子犬を引きとって育てる訳ですが、約一年で30kgまで成長

しますが、力が強くて散歩するだけでも容易なことではありません。一生懸命育てても、この後一年間の訓練を受けて、盲導犬

になれ るのは 3割程度です。10才位



までの7、8年間、人間のパートナーとして、育てた犬が盲導犬になるのは嬉しいのですが、別れが大変つらいものになります。

これからの障害者ボランティア運動の方向性

障害者ということ、ひとくくりにはできません。例えば盲人と車イス障害者の場合、盲人は歩道に段差がないと車道との境が分からず不安になり、車イス障害者は段差があると通行できない。お互いが利用するのに支障がないというものを探っていくなければなりません。(北九州市では現在段差は15mmに設定されている。)

現在の状況では補助金の要求だけでも、自らが運動していかないと解決していかない。小規模作業所という制度を利用して、透析患者の働く場所として運営している「さわやか」「やすらぎ」はすばらしいものだと思います。

行政との関係は、馴合いのない適度な緊張関係であることが望ましい姿です。どんな団体でも問題になるのが若い人・新しい人が参加しなくて活性化が図れない。これからも賢友会のもとに強い組織力で活動していただきたく思います。

自ら多くのボランティア活動に参加されている経験をもとにお話しいただき、参加者の皆様から大変ご好評いただきました。